



## 7月の参院選が近未来の日本の形を決める

### 歴史の転換点を迎えた世界情勢

21世紀になって中国の台頭が著しい。相対的にアメリカの力が衰退している。世界のパワーバランスが変化しているのだ。中国は経済的、軍事的に大きな成長を遂げ、アジア、ヨーロッパ、中東、アフリカ等の国々に影響力を拡大している。数年後にはアメリカを追い越さんばかりの勢いだ。さらに、ロシア、北朝鮮なども国力を強化し、アメリカへの抵抗力を増大させている。

一方、アメリカは、ほんの一握りの人たちが巨万の富を独占し格差が著しく拡大した。その上、人種差別も増大する中で国民の価値観が揺らいできている。結果、国力低下をもたらしていると見るべきだろう。

しかし、第2次大戦以降、圧倒的な経済、軍事大国として世界の頂点に立ち続けたアメリカが、バイデン政権

により、NATO諸国や日本、韓国などの軍事力強化に戦略転換をしてきたのが今日の情勢と言えよう。

いま、世界はロシアの一方的なウクライナ侵略に非難轟々だが、この背景には**共通の価値観を持つ国々の軍事力強化**・とりわけNATO加盟国拡大で中国、ロシア等の台頭に対抗しようとしている事も認識しておきたい。

岸田政権は夏の参院選で憲法改悪（9条改憲）を争点化しようとしている。米国から軍事同盟強化（一体化）を迫られ「戦争のできる国」にしたいからだ。世界情勢の変化を理由に主体的な戦争参加国に舵を切ろうとしている。防衛予算の大幅拡大（GDP2%）や敵基地攻撃能力論、さらには、核共有論まであからさまに表面化されてきた。

来る参院選は我々にとって重大な危機だ！ 市民と野党（立憲、共産、社民、れいわ）は、憲法9条を生かす平和日本の構築に総力を挙げなければならない。そのため、立憲野党は共闘を戦略化し、32選挙区（1人区）では野党統一候補をまとめ上げ、一騎打ちの形に持ち込むことが不可欠だ。その成否が勝敗を決する！

労働大学企画編集委員 江原 栄昭